

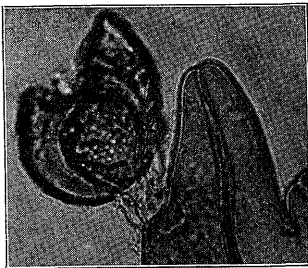
みやまゐのてノ腺毛

久 内 清 孝

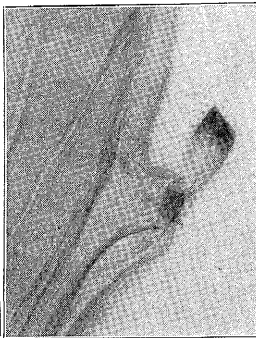
K. HISAUCHI: Glands on scales of *Dryopteris crassirhizoma* NAKAI, etc.

相當ニ時代後レナ話ダガ、みやまゐのて (*Dryopteris crassirhizoma* NAKAI) ノ葉ノ鱗片ニ腺毛ガアルカ無イカト云フ事ヲ述ベル。今頃ヲカシナ話ダガ止ムヲ得ナイ。一般的ニハ腺ハ無イト云フ事ニナツテ居ル様ダガ藥學ノ方面デハ、之レヲ重視シテ居ル事ハ、欽定本トモ言フベキ下山、朝比奈、藤田三博士ノ生藥學ヲ見タ丈デモ判ル。

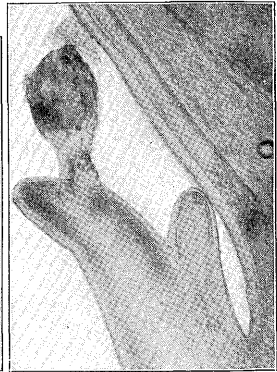
然シテ、同一物ニ對シ腺毛ノ存否ニツキ説ガ對立シテ居ル以上、何レガ正シイカヲ知ラント欲スル様ナ物好キハ、廣イ世間ニハ恐ラク吾輩バカリデアルマイ、ソコデ、余ハ先ヅ内地產ノモノ、成葉ノ鱗片ニツキ檢シタガ、何モ見當ラナイノ



第 1 圖 A gland on the scale of *Dryopteris crassirhizoma* NAKAI.



第 2 圖 A gland on the scale of *Dryopteris lacera* O. KUNTZE.



第 3 圖 A gland on the scale of *Dryopteris uniformis* MAKINO.

みやまゐのてノ鱗片上ノ腺毛

くまわらびノ鱗片狀ノ腺毛

おくまわらびノ鱗片上ノ腺毛

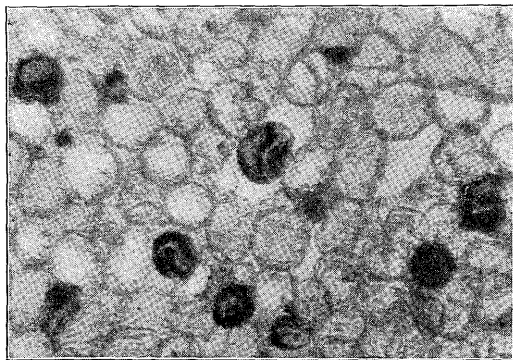
デ藤田直市博士ニ伺ツタラ、同博士ハ北海道產ノモノ、幼芽ノ尙、卷疊シテ居ル部分ノ鱗片デ實見寫生サレタトノコトデアツタカラ、早速北大ノ館脇博士ヲ煩ハシテ、同地野幌產ノモノ、生本ヲ送ツテ頂イテ觀察シタラ、全ク藤田博士ノ言ハレタ通りノ結果ニナツタ (圖 1) ノデ、或ハ北海道產ノモノト、内地產ノモノト違フノデハナイカト、私ニ、餘計ナ疑ヲ起シ、大正 9 年出版ニカ、ハル、小石川植物園種子目錄ヲ出シテ名付ケ親デアル、中井博士ノ原記載ヲ見タラ、中井博士ノ材料ノ產地ハ北海道、本州、四國、朝鮮ニ及ンデ居ルノデ、余ノ夢

ハ全ク夢消シテシマツタガ、中井博士ノ材料ノ産地ニ、富士山ガ舉ゲラレテ居ルノデ、曾テ、富士山デ採リ、今尙栽培中ノモノヲ檢シタルニ、北海道産ノモノト同一ノ結果ニ到達シタ。從ツテ中井博士ノ言ハル、通り、北海道ノモノモ、内地ノモノモ同一デアルコトガ判明シタ。ソレナラ、何故ニ腊葉デ見タ時ニ之ガ見當ラナカツタカト言フニ、多分此ノ種ノ腺毛ハ幼芽ノ展開セザル時期ニ多ク鱗片ニ附著スル脱落性ノモノデアル爲メデハ無カラウカ。從ツテ、成葉ニ於テハ見エナクナル爲メ、腊葉ナドデハ見當ラナイノデアラウ。然シ生藥學的研究ニ於テハ、成葉ヨリモ根莖ガ研究ノ對象トシテ重視サレル爲メ藤田博士ニヨリ認メラルハニ至ツタノデアラウ。

ソレガカラテ、此腺毛ノ存否丈デハ、種ノ特徴トシテハ餘リ心細イト言ヒタイ。何ントナレバ、余ハ上記ノ事實ヲ見付ケタノニ付ケ上リみやまゐのでニ似テ、マタ、其利用價值ニ於テモ類似シテ居ルくまわらびニモおくまわらびニモ同様な事實ヲ見得タカラデアル。(圖 2.3)。或ハコンナ事ハ羊齒類ヲ通ジテ見得ル茶飯事カモ知レナイ。

然シ、此ノ腺毛ノ大小トカ、形狀トカハ更ニ注意シナケレバナラナイカモ知レナイ。ソレニハ、更ニ、比較觀察ノ必要ガ多分ニアルト信ズル。余ノ寫眞ハ觀察シ易イモノヲ選ビ撮影シタノダガ同一鱗片上ニモ形狀ヲ異ニシタリ、有柄ノモノダノ無柄ノモノダノガアツタガ、尖端部ニハ無柄ノモノヲ多ク認メタ。然シテ何レモ Sudan III ニヨリ著色スル。

ソレカラ如何ナル關係ガアルカ？ダガ試ニみやまゐのでノ根莖ノ頂部ノ横斷ノ切片ヲ作り Sudan III ヲ用ヒテ檢鏡シタルニ組織中ニ鱗片上ノト同様な腺ノ散在スルヲ認メタ(圖 4)其腺ハ形狀、大サ等鱗毛上ノモノニ酷似シ有柄ノモノモ見エタ、勿論 epidermal origin トシテ公認サレテ居ル鱗片上ノモノト之レトハ無關係デ夫々獨立ノ存在デハアラウガ同形ノモノガ組織中ニ見ラレル事ハ面白イ、



第 4 圖 A cross section of the root-stock of *Dryopteris crassirhizoma* NAKAI, showing glands (black spots) in the intercellular space, stained in Sudan III.

みやまゐのでノ根莖ノ横斷切片ニシテ黒點ハ胞間ニ存スル腺細胞ガすだんⅢニヨリ紅色ヲ呈シタルモノナリ。

(*D. filiman* ニハ既ニ知ラレテ居ルガ)。カ、ル腺ハ各種ノ羊齒ニ見ラレルデアラウガ、之ヲ如何ニ利用スルカモ興味アル問題デアルマイカ。恐ラク此存否、形狀等ハ鱗毛上ノモノト共ニ種ノ記載中ニ並記セラルベキモノデアラウ。マタ余ハ腺毛ト言ヒマタ腺ト言ツタガ實ハ言明シ兼ネルカラデアル、然シ組織中ニ存スルモノカラ考ヘレバ腺細胞トデモ言ヒタイ。

之ヲ要スルニ、みやまゐるのでニ於テハ幼芽ノ解舒展開セザル時期ニ於テハ鱗片上ニ腺ノ存スル事ハ確實デ、成葉上ノ鱗片ニ見エナクナルノミナラズ脱落シタ痕跡サヘ判ラナクナル。然シテ其存否ハ種ノ特徴トモ思ヘナイガ其形狀ニ就テハ追考ヲ要スル。マタクまわらび、おくまわらび、べにしだ、いたちしだ(ひめわらび、はりがねわらびニハ見エナイ)ナドニモ之ヲ認メル。更ニくまわらび(他ノモノハマダ見ナイ)デハ葉柄ノ組織中ニモ之ヲ認メタ。餘計ナコトヲシテ羊齒ノ取扱フ厄介ニシタ事ハ充分後悔シテ居ルガ恐ラク *Dryopteris* ノ或一群ニ物言ヒヲツケル結果ニナルノデアラウ、イヅレマタ其内ニ。

北出雲植物小話 (其一)

林 實

M. HAYASHI: Miscellaneous topics of Flora in Northern Idumo (I)

神代時代ニ文化ノ最モ榮エテ居タ出雲地方モ植物相ノ究明ニカケテハ非常ニ立遅レテ世間カラ顧ラズニ來マシタノデ淺學ヲ百モ承知ノ上微力ヲ私ノ採集シタ物ノ中珍シイ物ヤ珍シクナイ物ヤ? 下手ナ寫眞ヲ混ゼテ御紹介致シマス。少シデモ出雲ノ植物ニ對シテ皆様ニ御關心ヲ持ツテ頂ケマスレバ幸甚ニ存ジマス。又諸先生ヲ始メ同好諸氏ノ御示教ヲ切ニ御願ヒ申シ上ゲマス。

尙植物ノ檢定並ニ色々ト御指導戴イタ東大ノ前川文夫學士、京大ノ大井次三郎・北村四郎・田川基二ノ諸學士ニ對シ誌上ヲ以テ厚ク謝意ヲ表シテ置キマス。

1. たきみしだ *Anthrophyum japonicum* MAKINO (田川學士檢定)

明治十九年ノ春、土佐國高岡郡上分村樽瀧ニ牧野先生ガ發見サレテカラ久シイ間珍シイ物ノーツデアツタガ、近年デハ本州南部ニ廣ク分布スル事ガ分ツテ